



CM

神奈川県環境学習リーダー 連絡会ニュース

2001/2002年
12・1月

No. 24

役員会報告

12月役員会(12月17日) 13年度第8回役員会

1. 9期生(環境実践者養成講座修了生)関係:
入会説明会の報告。
24名が当連絡会に入会。
9期生を含む会員新名簿は14年度に作成。
2. 市民環境活動報告会(2月16日):
発表者・基調講演者・役割分担について実行委員会の報告(別添ちらし参照)
3. 環境科学センター実習室の利用について(本紙記事参照):
近藤氏を総括として各部会長・部会担当役員でプロジェクトの編成。
1月10日午後、実習室見学。
4. アンケート結果の報告(本紙記事参照)
5. 情報交換会の開催(3月2日)の決定(本紙記事参照)
6. 部会の活動状況報告(本紙記事参照)

第2回 会員意見交換会

第2回「連絡会」会員意見交換会が開催されます。

昨年、好評でした意見交換会が今年も下記の通り開催されます。

25名の新会員も交えてこれからの「連絡会のあり方」を話し合い、14年度の活動方針に反映させていくために皆さんの出席が望まれています。

ぜひご出席ください。

立候補を受付け開始 14年度役員

14年度の総会が4月20日(土)環境科学センターで開催されます(詳細 次号)。

同時に役員の変更が行なわれます。そのため、14年度役員の立候補の受付けをいたします。「連

カット：フキ

一日一日陽足が伸びて、光の春といわれる頃、霜や枯草の間から顔を覗かせる。
雌雄異株で雄株の方が黄色っぽい。
見て楽しむ花というより、食して春を実感する代表的花。

1月役員会(1月18日) 13年度第9回役員会

1. 環境科学センター実習室の利用について(別掲参照):
プロジェクトチームで具体的な打合せ会を2月1日に開催することを決定。
2. アンケート結果:
詳細を分析・確認して「連絡会ニュース」掲載内容を了承。(本紙記事参照)
3. 情報交換会の議題の件(本紙記事参照)
4. 連絡会主催「環境展」(仮称):
6月9日の開催を決定。
場所は県民センター1F。(本紙記事参照)
5. 部会の活動状況報告(本紙記事参照)

開催日時：3月2日(土)13:30~16:30

開催場所：横浜市市民活動支援センター

横浜市中区桜木町1-1-56

みなとみらい21

クリーンセンター4F

交通：桜木町駅下車、徒歩7分

TEL:045-223-2666 FAX:045-223-2888

議題：「連絡会」の今後について

- ・「連絡会」の活動のあり方
- ・アンケートの結果について

(連絡会の名称・組織・規約について)

終了後、有志による懇談会が予定されています。当日参加も受け付けできますが、出来れば事前に事務局にご連絡下さい。

「連絡会」運営にご協力いただける方、積極的に申し出て下さい。

締切り：2月14日。

連絡先：事務局長 児玉 勇

221-0005 横浜市神奈川区松見町1-44-1-406

TEL & FAX 045-423-3960

E-メール：kodama@muh.biglobe.ne.jp

アンケート調査の集計結果について

昨年12月に連絡会の今後の活動についてアンケート調査を実施しましたが、その集計結果がまとまりましたのでお知らせします。

アンケート調査を発送した会員数 168名、回答者数 47名、回収率 28%

質問1 会員個人の活動

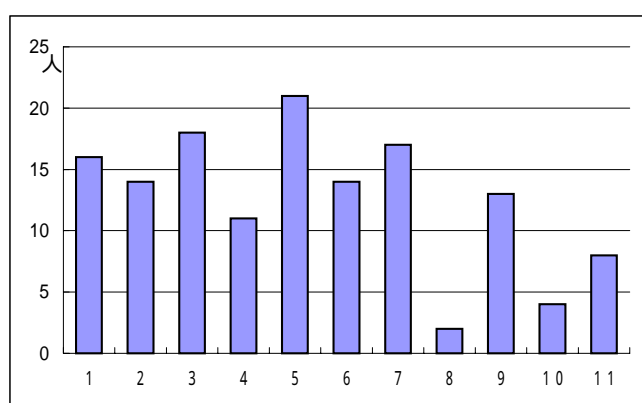


図1

(グラフ1~11の内容)

- | | | |
|------------------------------|--------------|----------------|
| 1 : 自然観察・保全 | 2 : 生物の調査と保護 | 3 : 大気・水質 |
| 4 : ケナフの普及活動 | 5 : 環境教育 | 6 : ゴミ・リサイクル運動 |
| 7 : 行政への協力(自然保護、環境基本計画の検討など) | | 9 : 省エネ活動 |
| 8 : ISO14001のコンサルタント | | |
| 10 : グリーン購入活動 | 11 : その他 | |

全部で11の分野について質問しましたが、図1に示すように多岐にわたる分野で、活躍していることが判ります。特に、多かったのは環境教育ですが、その中でも目立ったのはケナフを通しての小学校での環境学習でした。その他、自然観察、大気・水質、行政への協力、省エネ活動、ごみ問題など、実に幅広く活躍していることが読み取れました。

質問2 環境に関する資格など

やはり、最も多かったのは地球温暖化防止活動推進員で、その他公害防止管理者、自然観察、自然体験、森林保全に関する各種指導員、産廃中間処理技術管理者など、様々な資格などをもっている会員がいて活躍しています。

質問3 連絡会が重点的に行う活動

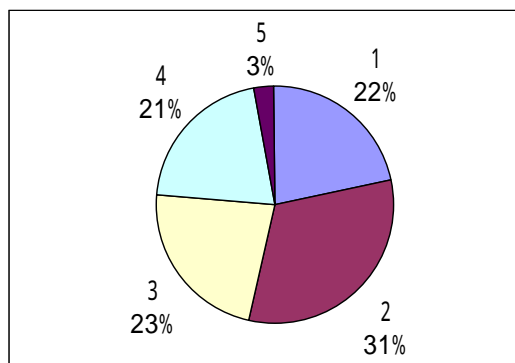


図2

図2に示すように、「環境問題の具体的な活動」が最も多く、「会員相互の親睦」、「環境に関する情報収集と提供」、「環境行政への協力」は、ほぼ同数でした。

環境問題の具体的な活動としては、省エネ、ごみ問題、自然保護、環境教育など、多岐にわたる内容でした。また、これらの活動はできる人ができることで参画すればよい、という意見もありました。

- | |
|-------------------|
| 1 : 会員相互の親睦 |
| 2 : 環境問題への具体的な活動 |
| 3 : 環境に関する情報収集と提供 |
| 4 : 環境行政への協力 |
| 5 : その他 |

質問4 名称変更について

表1-2

表1-1

現状	変更
18人	29人
38%	62%

(注) 複数回答した人 1人
 該当無いと答えた人 1人

かながわ環境学習リーダー会	4人
かながわ環境活動リーダー会	0人
かながわ環境活動推進協議会	4人
神奈川県環境学習リーダー会	5人
神奈川県環境活動リーダー会	4人
環境リーダーかながわ	5人
かながわ環境リーダー会	4人
その他(レッツ環境学習かながわ)	1人
その他(かながわ環境活動推進協会)	1人
その他(エコリーダー神奈川)	1人

表1-1に示すように、現状維持が38%、変更すべきが62%で、名称変更肯定派が約2/3という結果になりました。しかし、具体的な名称については、意見が分かれました。

質問5 会費値上げについて

表2-1: 会費の値上げについて

1	2	4	1, 4	2, 4	NA
17人	15人	8人	4人	1人	2人

1: 会費は現状でよい
 2: 会費は値上げすべきである
 4: 会費値上げ以外の収入増加を考える

表2-2: 値上げ後の会費

3千円	4千円	5千円	その他
7人	5人	2人	2人

表2-3: 値上げ以外の収入増加の方法

1	2	3	4	5	6
13人	24人	23人	14人	12人	10人

1: 広告収入を得る
 2: 環境活動に関する受託事業
 3: 自治体の助成金を受託できる事業
 4: 民間企業や財団からの助成金
 5: 賛助会員を積極的に募る
 6: その他

表2-1に示すように、「現状でよい」が17名、「値上げすべきだ」が15名、「値上げ以外の収入増加」が8名、「会費は現状で、値上げ以外の収入増加」が4名、「会費を値上げし、値上げ以外の収入増加も」が1名という結果になりました。

値上げ後の会費については、3千円が7名で最も多く、ついで4千円、5千円の順でした。

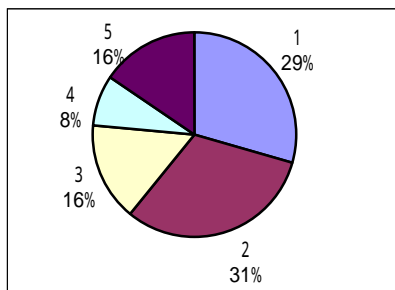
収入増加の方法については意見が分かれましたが、多かったのは「環境活動に関する受託事業」と「自治体の助成金」でした。

問6 NPO法人格の取得

NPO法人格取得については、「連絡会としてすぐ取得すべき」が31%、「必要なし」が4%、「時期尚早」が5%、「有志で」が33%でした。(図3)

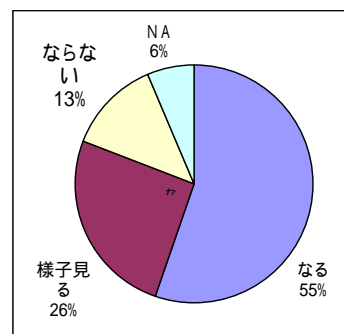
「法人化された場合、会員になる」が55%と半数を越えたことは、法人化についての関心が高いことを示しています。(図4)

図3



1: 取得を急ぐべき
 2: 有志でNPO法人化
 3: 時期早尚
 4: 取得は必要ない
 5: どちらともいえない

図4



これらの調査を参考にして、3月2日の意見交換会で活発に論議し、今後の活動に反映されるものと思います。最後に、この調査にご協力頂いた会員の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

(アンケート調査担当 木本 光昶 原園 信夫)

新企画のお知らせ

神奈川の環境を考える

神奈川県環境学習リーダー連絡会“環境展”

この度、当環境学習リーダー連絡会では、会員リーダーの地域での地道な活動の実態を一堂に展示して、当環境学習リーダー連絡会の会員の活動の現状とその成果を共有し、環境保全の輪を広げ、改善を深め、活動をより確かなものにするための会員の力の結集を計る試み、当環境学習リーダー連絡会“環境展”を開催することになりました。

つきましては、第1回実行委員会を下記要領で開きますので、実行委員をご希望の方はお集まりください。

また、当“環境展”の開催には会員の皆様のご協力が何よりの力となります。多数の皆様の出展ご参加とご協力をお願い致します。

記

1. 神奈川県環境学習リーダー連絡会“環境展”
日時：2002年6月9日
場所：かながわ県民サポートセンター
1階展示室

2. 環境展第1回実行委員会

日時：2月14日(木)10時～12時

場所：かながわ県民サポートセンター
601号室

3. 環境展出展参加ご希望の方は下記要領でご連絡ください

(1) 出展希望会員名

(2) 出展希望内容

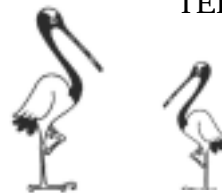
(3) 希望パネル数(120Lx180W)

(4) 希望展示台数(180Lx45Wx74H)

(5) 出展参加申込み締切り 2月28日(木)

連絡先：環境展担当 北村 博子

TEL/FAX 045-474-1617



実習室が完成

環境科学センターで改修工事

環境科学センターでは昨年秋より展示室のコーナーを実習室に変更する改修工事をおこなっていましたが、この度完成し、連絡会役員で訪問拝見してきました。

実習室は、ガス栓・電気・パソコンのランが各テーブルに配線されており、化学実験、測定など実践的な活動をするための設備が整っています。ドラフトチャンバーの設備もあって、本格的な測定を可能にしています。パックテストや試薬などの消耗品は利用者が用意するなど使用にあたって条件はありますが、大気・水質調査、紙漉きなどを行なうには以前よりはるかに便利になります。

その他、ワイヤレスマイク・液晶プロクター・OHP・スライドの用意もあって、一度に30～40名が学習できます。センター入口の文献閲覧スペースは以前と同じくだれでも利用可能で、その奥に4卓のテーブルを配置した活動支援スペースがあり、今後は相談窓口を設けて市民活動の相談に応じる体制を組むそうです。

利用は事前申し込み制(2週間～3ヶ月前)で、1日1組の団体(5名以上30名以下)です。



センターは平成14年度の活動計画のなかに12回のこども環境体験教室を設け、その計画と運営について連絡会とともにあたりたいと考えています。連絡会としても各部会・その他で対応出来るものと考え、早急に年間のスケジュールを組む予定です。(本紙記事参照)

青山副部長は「この実習室はリーダーや市民活動の実践者に利用してもらってこそ意味がある」と語っておられます。おおいに活用しようではありませんか。

(広報担当 森 千春)

= 豆知識のページ =

ネイチャーゲームの 指導員として活躍する人

最近、自然とふれあう機会が、めっきり少なくなった私たちですが、ネイチャーゲームというツールを通して、豊かな自然を楽しむ活動を積極的に行っている、神奈川県ネイチャーゲーム協会理事で、茅ヶ崎市役所健康づくり課の北村允彦さんを訪れて、ネイチャーゲームについて取材しました。

ネイチャーゲームってどんなことするの

ネイチャーゲーム（以下 NG）は、1979 年アメリカのナチュラリスト ジョセフ・コーネルさんから発表された、自然にふれあう野外活動であり、1986 年より日本でも実施されるようになりました。

現在、110 以上のゲームがあり、年間を通して自然環境の中で自然とふれあう野外活動です。特に、五感を使って様々な自然体験をすることによって、自然と自分が一体であることに気づくことを大切にしています。

NG の組織はどのようになっているの

（社）日本 NG 協会がジョセフ・コーネルさんと契約して、NG の普及と研究を行っています。そして、各都道府県には NG 協会があり、神奈川県 NG 協会には、現在約 300 人以上の指導員がいます。その中で、上級指導員が 1 名（全国でも 20 名しかいない）、中級指導員が 10 名（北村さんは中級指導員）、残りが初級指導員です。

また、神奈川県 NG 協会の下に、よこはま湘南、さがみ、かわさき、グリーン相模原の 4 つの地域の会があります。

どのような行事があるの

年間の大きな行事としては、10 月の第 3 週に全

企画募集

こども環境体験教室

環境科学センターでは 14 年度の事業計画に 12 回のこども環境体験教室の開催を予定しています。身近な環境調査、ごみリサイクル、紙漉きなどの



ネイチャーゲーム
（目隠しイモ虫にスタート）

国で一斉に、同じ NG が開催されます。その他、各地域では日本 NG 協会、教育委員会、小学校などから委託を受けて小学校のクラスや子供会で NG が行われます。

NG についての問い合わせ先

日本 NG 協会のホームページ

< <http://www.naturegame.or.jp> >

問い合わせ先 [神奈川県 NG 協会]

〒216-0006 川崎市宮前区宮前平 3 - 12 - 3

富士通ハイツ 3 0 2 号

TEL 044-854-9316



ネイチャーゲーム
（カモフラージュ、いくつ見つけた？）

体験を通して環境問題を考えて欲しいと企画するものです。部会やサークル、個人の活動でその事業に協力できる方は、ぜひ参加してください。

参加者の第 1 回打合わせ

2 月 1 日 午後 2 時～

横浜サポートセンター 11 階 第 2 講義室

問合せ：近藤 TEL 0467-78-6843

部会活動報告

環境モニタリング部会

1. 活動報告

(1) 9～11 月度ジョロウグモ調査結果

調査員数：7、データ数：273。

データは少なかったが、地図添付やスナップ写真添付等、熱心に調査していただいたのが目立った。

詳細は1月例会で報告。

(2) 12 月度 NO₂ 調査結果

- ・12/1 捕集管の組立てと配布
- ・12/6～7 24 時間サンプリング
- ・12/15 濃度測定

上記調査員数：25、使用捕集管数：266。

調査結果に基づく環境マップについては部会員の田村了一氏が作成中。

詳細は1月例会で報告。

(3) 9 期会員への P R 活動

12 月 1 日 (土) 午後、9 期会員を対象に行われた本連絡会の説明会に参加し、当部会の P R を行った。当部会には 5 名の参加希望があった。

(4) 1 月例会

14 年 1 月 26 日 (土) 10:00～12:30

場所：横浜市民活動支援センター

テーマ：

- 13 年 12 月度 NO₂ 調査結果
- 13 年度ジョロウグモ調査結果
- 14 年度タンポポ調査の進め方
- その他

2. 活動予定

(1) 3 月例会 (予定)

14 年 3 月 9 日 (土) 13:30～16:00

場所：環境科学センター

テーマ：

- センター新設実験室の見学
- 環境マップづくりについて
- 部会新年度計画の検討等

ケナフ部会

1. 活動報告

11 月 25 日 定例会

ケナフ刈り取り、種取 参加者 荒谷、小川、鈴木、安部、河西、小川

当日は、好天に恵まれ、種を採る分を残して刈り取り、圃場の整理実施した。3 時半頃までかったので炭焼き、バーベキューは中止した。

11 月 30 日 愛甲郡愛川町立菅原小学校 1 年～6 年 8 名

ケナフの前処理から紙漉きの指導。小川、荒谷当日はケナフの叩きから、ミキサーかけ、蒸解までの一連の実施を。後日、親が参観する中で色紙大のケナフ漉きを作り絵を書いて送って頂く。私達の指導で自信を持って紙漉きをしていたとの先生から感謝の手紙を頂く

12 月 1 日 茅ヶ崎市立浜須賀小学校 3 年 2 組のケナフ紙すき指導

鈴木、小糸、河西、原園、荒谷

3 年 2 組の保護者が自主設定した授業で、紙漉きは茎から紙にいたる過程、ケナフ製品等について実習を体験する。及びケナフ染めについて説明した。親子とも楽しい経験であったと後の懇親会で話されていました。

12 月 17 日 環境科学センターの圃場平成 14 年度借用申請

2. 今後予定

1 月 30 日 聖ヨゼフ小学校 2 年生 80 名紙漉き指導、前打ち合わせ 小川、荒谷

2 月 1 日 環境科学センターの講座計画の受け入れ検討
市民活動サポートセンター

2 月 6 日 聖ヨゼフ小学校紙漉き指導
早野、小川、鈴木、児玉、荒谷

2 月 ケナフ部会定例会 (日時未定)

3 月 畑起し (日時未定)

なお、紙漉きの指導の依頼が寄せられていますが、日程が未定です。



エネルギー部会

1. 活動報告

1) 第2回「親と子の楽しい省エネ教室」後援

日時：11月25日(日)13時～16時30分

場所：かながわ県民活動サポートセンター

参加者13名。部会員：福田、下条、藤木、萩原、高橋、青野、北村

手作りエコ紙芝居「すてられた味噌汁のゆくえ」。大人もなるほどと納得する水の流れ(取水浄水場 家庭 浄化処理場 川・海)とエネルギー問題について。

手作り「エコいろはカルタ」取り。大人も子どもも大はりきりで大熱戦。子供だけで再度挑戦。子供たちが興味をもち実践したいと思った札の上位3つ:「米の研ぎ汁(生)ごみもりサイクル、社会も変わる」「リフューズ・リデュース・リユース・リサイクルで、無駄にサヨウナラ」「待機電力節電すれば年4千円」。2回のカルタ取りで子供たちは興奮ざみ。眼が輝き、あふれる生気を。

「電気おこし」

「ワットアワーメーターで電力・待機電力測量」

「省エネナビと省エネについて」

「節電コンセント作り」につなげる。

子供たちが面白がったもの:節電コンセント作り、カルタ取り、紙芝居、ワットアワーメーターの電力測量。「エコいろはカルタ」は、「オリジナルの絵も美しく、内容も簡潔にまとめられている」と大人も感心する出来映えとなり、後日、横浜市立新治小学校5年生二つの組で、省エネに結びつけて実施の運びとなりました。

2) 定例部会 12月9日(日)14時～17時

場所：かながわ県民サポートセンター

第2回「親と子の楽しい省エネ教室」反省

第3回「親と子の楽しい省エネ教室」方針について

市民環境活動報告会展示方針について

平成14年活動方針

環境家計簿試案

「省エネチェック25」まとめ

.....

会員の活動紹介

「省エネライフスタイル チェック25」 アンケートのまとめ

新入部会員、各種省エネ関連資格情報の紹介
酒井大勤氏出席

2. 活動計画

1) 第3回「親と子の楽しい省エネ教室」後援

日時：2月3日(日)11時～17時

場所：かながわ県民サポートセンター 604室

内容：準備、展示、11時～12時50分

「地球が大へん」 エコ紙芝居「すてた味噌汁のゆくえ」「エコいろはカルタ」取り 電気おこし 電気を見てみよう 省エネが見える?

節電コンセント作り

終了後：気づいたこと一言、後片付け

2) 定例部会

2月24日(日)14時～17時

於 かながわ県民サポートセンター 704室

反省：第3回「省エネ教室」

市民環境活動報告会展示

出展準備

横浜市神奈川区友・遊まちづくりフォーラム

「神奈川区環境問題を考える会」協力・指導

出前「省エネ学習」プログラム作成

出前「省エネ学習」パンフレット作成

各種助成金について

平成14年度活動方針について

自主制作について 分担

「親と子の楽しい省エネ教室」開催日程について

報告

3月31日(日)14時～17時

於 かながわ県民サポートセンター 702室

反省：「友・遊まちづくりフォーラム」指導

出前「省エネ学習」プログラム、パンフレット作成

平成14年度活動方針まとめ

報告、情報

その他

エネルギー部会では、一般市民を対象に省エネルギーの啓発活動をしています。

平成13年度は「親と子の楽しい省エネ教室」を2回開催し、ボランティアフェスティバルで展示などの広報活動を行ない、エコ紙芝居、エコいろはカルタなどを作成しました。

また、市民の省エネ意識の変化を確認するために、活動のたびにアンケートを実施してきました。このアンケートは(財)省エネルギーセンターが

作成した「省エネライフスタイルチェック25」といい、家庭の5つのシーンでのライフスタイルをチェックするものです。

今回は今年度中に実施したアンケート165名分をまとめましたので報告いたします。このアンケートの大部分は、9月22日23日のボランティアフェスティバルにおけるもので、一般市民のデータが多く含まれ、現在の市民のライフスタイルを反映していると考えています。紙面の関係でアンケート内容は掲載いたしません。ご興味のある方ならびにアンケートにご協力くださる方は、エネルギー部会々員にお申し付け願います。

アンケートの5つのシーンは、リビング関係、キッチン関係、浴室・洗面所関係、車関係、その他です。アンケート結果からわかったことは以下の通りです。

多くの人を実施している省エネ行動のベスト5は：

	%	シーン	省エネ行動
1	91	リビング	冷房機器は不必要なつけっぱなしをしないように気を付けている
2	89	リビング	人のいない部屋の照明は、こまめな消灯を心がけている
3	86	洗面所	洗濯する時は、まとめて洗うようにしている
4	82	キッチン	冷蔵庫の扉は開閉を少なくし、開けている時間を短くするように気を付けている
5	82	その他	電気、ガス、石油機器などを買う時は、省エネルギータイプのものを選んで

一方実施されていない省エネ行動のワースト5は：

	%	シーン	省エネ行動
1	61	キッチン	煮物などの下ごしらえは電子レンジを活用している
2	42	浴室	お風呂は、間隔をおかずに入るようにしている
3	41	キッチン	食器をまとめて洗う時は、食器洗い乾燥機を活用し、温度調節もこまめにしている
4	38	その他	電気製品は、使わない時はコンセントからプラグを抜き、待機時消費電力を少なくしている
5	36	キッチン	冷蔵庫の庫内は季節に合わせて温度調節をしたり、ものを詰め込まないようにしている

これらの結果をみると多くの人々が電気製品のつけっぱなしをしない意思をもっており節電しています。電気、ガス、石油機器を購入する時は省エネタイプを選んでいくことがわかります。

一方、電子レンジでの下ごしらえや、食器洗い機の省エネ効果PRが不十分であると感じました。待機電力カットのため、プラグを抜かない人が約38%もいるので、節電コンセントの啓発普及が今後も必要であると感じました。

今後もエネルギー部会として、省エネ教室他の活動の一つとしてこのアンケートを継続し、市民の意識の変化を調査し、発表していきたいと考えています。

(エネルギー部会 萩原秀人)

「秦野市エコリーダー養成講座」報告

改札口を通り、暫くすると「きれいな街ねー」と、リックを背負ったハイカー達の声が聞こえる。そんな街、秦野市のエコリーダー養成講座「廃棄物-暮らしとごみ」の講師役を仰せつかった。10月から11月にかけて延べ4日間で、身近なごみをより深く理解し、発生抑制の必要性を学び、講座終了後、率先して活動するリーダーを養成する目的を持っている。

GO3の「ごみを少しでも減らしたい」という目的に一致することから、GO3の皆で力を合わせて！とすることで講師役の準備をスタートしました。しかしどんな方々が講座に参加し、ど

んな情報を必要としているのか？なかなかイメージが出来ませんでした。

そんな不安を取るには、やはり現実を出来るだけ把握しておくことだと思いました。環境衛生課でごみの現実の取材、原園さんと収集現場の取材や、『TAMAとことん討論会』へ参加したりして、ゴミ減量への情報収集を重ねました。又近藤さんや原さん、原園さん、秋吉さんと何度も打合わせを重ね、当日に臨みました。

10月20日(午後1時~3時) 『環境に優しい買い物』の講座

講座では私が20分グリーンコンシューマーの必要性をお話しさせていただいた後、原さんが川崎で。しかし、本気で持続可能な循環型の実践活動を中心に1時間30分ほど、講義をし

て下さいました。その後、JASマークの野菜や、古紙100%のトイレットペーパーやティッシュペーパー、塩ビ抜きラップなど実物を実際に手にとって学習していただきました。

11月23日(10時~3時30分)ワークショップ『私たちのゴミ問題解決』の講座

横浜から秋吉さんが、又原園さんは都合が付かなくなり、急遽近くの鈴木さんが応援に駆けつけてくれました。開講講義は、平成11年神奈川県環境学習リーダー養成講座7期のワークショップの講座で、「ごみを減らしたい」という仲間が集まりGO3の会が誕生したこと。

行政にGO! 消費者にGO! 企業にGO! であり、今でもこうして活動し、3年目を迎えたことをお話しさせていただきました。その後、近藤さんがワークショップについて説明し、リ

ードしてくれました。「リーダーの使命は何か?」「どうしたらごみは減るのか?」KJ法や、ブレンストーミング法を用い、グループ発表してもらいました。

途中「ごみが減ると不景気になる」という人がいらして、頓挫してしまう場面もあり、ゴミ問題を考えるとき、経済、政治、人間の持っている本質など、あらゆる学習と情報が必要であることを改めて感じました社会を目指すなら、ごみになるものは、『作らない。売らない。買わない。』と社会全体が毅然とした態度で対応しないとごみは減らないと思うこの頃です。『企業栄えて、国滅ぶ、いや人類滅ぶ。こんなことになるとは思わなかった』では済まされない。(7期 狩野光子)

13年度のエネルギー部会を振り返ると

エネルギー部会の13年度の活動状況はすでにこれまでの紙面にて報告されている。しかし広報部からこれまでの総括をとの要請があり、あえて筆をとった次第である。

いまのエネルギー部会の活動路線は省エネを主とした学習・啓発系で、親と子という家庭を対象としたものである。自然エネルギーの利用・普及という事業系か学習・啓発系でいくかを、北村代表を中心に論議した12年度と比べほぼ路線も定まり二回の省エネ教室、ボランティアフェスティバル出展等具体的活動に踏み出したのが13年度であった。

部会のメンバーは電気の専門家の萩原・高橋さん、環境家計簿の簡易化に取り組んでいる藤木さん、パソコン専門の青野さん、人あつめとロジ担当の福田さん、そして諸情報を提供し芸術的センスで各種ツールを作成しメンバーをプル&プッシュしまとめる北村代表等、異質メンバーにより構成されている。

活動の基本はヒトだが先立つものはカネ、連絡会予算や会費の他、行政からの補助金を萩原さんの盡力で得たことも活動にハズミをつけた。また北村代表の各種団体とのネットワーク形成も重要なポイントである。というのは人あつめは各部会・各団体にとっても大きなモメントであるからである。その意味で催しに出席する人による参加型イベントは効果的であり、対象も個々の家族から地域の幼稚園・小学校へと拡大することが必要となる。

高度成長期以降に生れ育った世代は、生れ乍ら欧米型生活=石油文明生活にドブプリつかり、価値観も自由・民主主義にもとづく個性尊重といえはきこえはいいが、自己中心主義または一国単独主義であり、行きつくところは異質な文明の差別による衝突であり、女性・子供・高齢者・障害者・失業者の市場からの排除による福祉破壊と一般廃・産廃の排出による環境破壊であった。エネルギー部会の活動目的は、省エネを通じてこれまでの近代文明生活にもとづく価値観への挑戦といえよう。

(6期 下条 泰正)

私の環境づくり

私は、「環境」が多分野、多岐、多方面に渡って必要とされるものを十分に含んでいて、決して一人で出来るものではない、という事を、まず言いたいのです。それは、必ず大勢の力を借りる事が、環境の前提条件になるようなものであると言えたからです。

次に、私が過去を振り返って、まず環境の中の衣食住という生活範囲と、社会という生活範囲の二つ

の環境が最も主流になっているという事です。それは、環境というものが、まず身近から、しかも自主独立尊そんというような事から始まっていて、その残りのレジャーそして職業というように、生活に加えとする不足補いに向かって行ったという事です。そして、それは自然の流れであって、まったく正しい流れであったのです。

「環境」が、いかに多くの種類があって、そしてそれは、生活のいちいちに関係していて、それにかかる時間とお金によっていました。そして、その生

活の環境が決して一人、一人の心掛けによるものだけではなく、大勢の力を借りていっせいかたづけ、より良くしてゆく態度でなくてはよくないという事でした。それは、毎日の集積したものが、一人でかたづけられるものでない、という事でおわかりという事です。

「環境問題」が、この両方からの協力で、あっという間に、ここ五年、十年の短い間にかたづいてき

掲示板

会員の加入

鈴木 豊さん(8期)
〒254-0906 平塚市公所 209-9
TEL/FAX 0463-58-7615



会員の新住所(住所変更)

生田 静雄さん(4期)
〒228-0802 相模原市上鶴間 2-20-14
電話: 変更なし

第3回「親と子の楽しい省エネ教室」

日時: 2月3日(日) 13時~16時
場所: かながわ県民活動サポートセンター 604室
エネルギー部会後援
問合せ: TEL/FAX 045-474-1617(北村)

7期修了者の催し(情報交換会・総会)

7期とその他の期の皆さんの参加大歓迎。
月日: 3月23日(土) 9:30 逗子駅前集合
内容: 三浦半島の大楠山を訪ね、川の生物・斜面の植物を観察(自然教育園学芸員の同行説明あり)。
午後、大楠山青少年の家で情報交換会・総会。
雨天時は、三浦半島の自然教育園で学習。
問合せ・申込み: 村山和永(7期)
TEL/FAX 045-784-0589
E-mail kastkm@net.ksp.or.jp

「ドイツの自然環境保護視察報告」

~奥さん、子供さん同行して皆さんで楽しく勉強してきました~
日時: 2月18日(月) 14:00~16:00
場所: 県合同庁舎 5F(藤沢市民会館筋向い、藤沢駅から約10分)
報告者: 八城敬友さん(藤沢自然懇話会会員/川名・清水谷戸を愛する会会員)
定員: 100名 申込み制 会費は無料
申込み先: 阿部秀雄(4期)
TEL/FAX 0466-26-5918

たのです。自然環境が観光を中心により良くなりました。都市環境が交通を中心により良くなりました。そして、衣食住環境が物価と商品の値段等からより良くなりました。そして社会も全員の努力で、まったく変わりました。それは、取りも直さず、国民のそれぞれ出来る事をしめくくってきたからでした。私は、特にモニターそして、その他の意見を述べる事に専念したのでした。(1期 森山 多津子)

横浜市神奈川区

第5回友・遊・まちづくりフォーラム
日時: 3月9日(土) 13時30分~17時
3月10日(日) 10時~15時30分
場所: 市民防災センター 訓練室
神奈川区環境問題を考える会
「家庭でできる省エネルギー」エネルギー部会指導
エコ紙芝居、エコいろはカルタ、環境家計簿、
賢い車とのつきあい方
省エネeメール相談コーナー(財)省エネルギーセンター
soudan@eccj.or.jp FAX 03-5543-3021

かながわ女性センター「春のフェスティバル」 参加企画募集案内について

日時: 4月21日(日) 10:00~17:00
場所: 江の島かながわ女性センター全館および全域
内容: 連絡会会員または関連団体の活動発表展示や
実演展示なんでも結構です
例: ケナフを利用してはがきを作ろうなど。
参加費: 無料 ただし展示用や実演用に使用するものは出展者負担
共催: 「地球人間環境フォーラム」
「クリーンアップ全国事務局」
「神奈川県美化財団」
後援: 藤沢市・藤沢市教育委員会
申込み/問合せ: 県立かながわ女性センター
参画推進部 寺田
TEL 0466-27-2118
FAX 0466-25-6499

編集後記

今月は寄稿が多くあったので、増頁にしました。郵送のために折りたたむ都合から、6頁分を第2部としました。
これからも第2部を必要とするほどの寄稿を期待します。

広報部 羽生田 洋啓

発行人: 神奈川県環境学習リーダー連絡会
連絡会代表 清水 幸夫
編集人: 広報担当 森 千春
TEL 0468-57-0835 FAX 0468-57-0837
発行日: 2002年1月27日

市民環境活動報告会の報告から垣間見た連絡会の活動状況

5期 清水 幸夫、 7期 森 千春

1. はじめに

市民環境活動報告会(旧市民環境学会)は、平成7年2月に第1回が開かれてから、平成14年2月には第8回目を迎えようとしている。当連絡会の活動のひとつは、会員がそれぞれの地域で、地道な環境活動を実践することにある。これら地道な活動を、誰が、どこで、どんな活動をしているかが十分に把握できていないし、活動が見えてこないという声もある。しかし、これらの環境活動の一部は市民環境活動報告会で発表されているものと考えられる。そこで、今回はこの報告会の過去7回の活動報告の内容を整理して、会員の活動状況を垣間見ることにした。

調査に当たり、第1回から7回(平成13年2月

24日)までの報告会の要旨集により、また、諸先輩のご好意による資料を参考にさせていただいた。整理にあたっては、報告内容の専門分野別分類と報告者の県下での地域活動マップを作ることにしたが、前者の専門別の分類は、“環境カウンセラ-プロフィールシ-トの専門分野の分類項目”を参照させていただき、項目の区分については、報告の内容が多岐にわたるものが多く、分類が困難であつたが筆者らが要旨集の内容から適宜判断した。なお、ケナフについての活動については環境教育の項目にいった。次に後者の県下での地域活動マップは報告会だけの資料であり、その作成を躊躇したが、これを機会に、情報として更に充実させ共有できればと考えて作成することにした。

2. 専門分野別の分類

全発表課題数は49件で、その結果を表-1の報告一覧に示す。表中には文献番号に相当する番号(始めの数字が、第1回報告会等の回数を示し、次の数字は発表の順番を示す)発表課題の所属グループ名、活動地域、専門分野別分類を付記した。

専門分野別の分類では、その結果を図-1に示す。図-1から市民活動分野がもつとも多く11件で、次いで環境教育が10件である。自然保護と水質についての活動はそれぞれ5件で、これらを合わせると自然系の分野での活動が多いといえる。一方、廃棄物、リサイクル、エネルギーや環境マネ-ジメント・監査の項目に当たるものはそれぞれ2件づつであつた。また、化学物質、騒音、振動、悪臭、などの分野の発表は見られなかつた。

これらの内容から、市民の環境学習リ-ダ-としての活動は自然系の分野で活発に行われてきたといえよう。

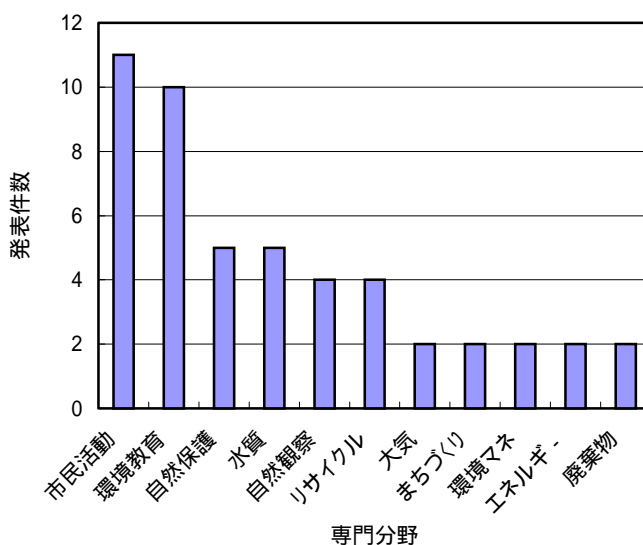
3. 地域活動マップ(図-2)

報告会で発表された皆さんが、どこで活動しておられるかが関心があり、それを知ることで情報交換のお役にたつと考え、地域活動のマップの作成を試みたが、報告要旨から丹沢山、相模川や三浦半島など活動地域が明確なものもあるが、報告には、環境への提案やISO手法による生活改善へのアプローチのような地域性の少ないものもある。そこで、なるべく顔が見える形で整理したいので、ここでは、

とりあえず発表者の住まいを中心に整理し、図中の市町村に文献番号を入れさせていただいた。詳しくは、この文献番号から、その報告要旨集を参照されたい。なお、県外の方と住所の調査ができない方もあつた。この整理のしかたについてはいろいろとご意見もあるかと思われるが、今後の課題としたい。

この地域活動マップの結果から、発表者が15の市町村にわたること、横浜、鎌倉、逗子、藤沢市の方々の発表が多いことは特色といえる。

図-1 専門分野別分類



4. おわりに

第8回目の市民活動報告会は、当環境学習リ・ダ連絡会だけでなく、NPO法人かながわ環境カウンセラ・協議会と神奈川県地球温暖化防止活動推進員グループからの参加が決まり、それぞれから発表していただくことに決定している。従って、この報告会もすこしづつ活性化してきたといえる。今後も発表の輪が広がることが考えられるので、今後、市民レベルの環境活動実践者の発表の場として、権威あるものになればと願うひとりである。なお、筆者らは、浅学を顧みず本文を紹介させていただいた。

現在、当連絡会は会員数も200名近い大世帯と

なり内外から環境リ・ダとしての期待も大きい。事務局としては、連絡会の広報パンフレットを作り、最近の連絡会ニュースでは会員の活動状況を取り上げる等の努力をしているが十分とはいえない。今後、いろいろな機会を利用して情報を整理し提供したいと考えている。

なお、まとめるに当たり環境科学センターの本多部長、青山副部長、当連絡会の草野郁大、上野和雄さんから資料を提供していただいた。

最後に、この環境活動報告会を支えてくださった環境科学センターの関係各位とリ・ダ連絡会の先輩各位に厚くお礼を申し上げます。

図 2 地域活動マップ

数字は文献番号

参考資料：市民環境活動報告会での基調講演一覧

開催月日 回	題名	講演者	所属	会場
H.7.2.18 第1回				環境科学センター
H.8.2.17 第2回				環境科学センター
H.9.3.1 第3回	地域で広げよう環境保全活動	岸 由二	慶応義塾大学教授	県民サポ・トセンター
H.10.3.14 第4回	環境保全活動と協働	山本 耕平	ダイナックス都市環境所所長	県民サポ・トセンター
H.11.2.20 第5回	リフレッシュ・シエ - 計画試案 ~ 持続型省エネ・リサイクル環境改善をねざして	大友 俊充	早稲田大学理工学部教授	自総研ホ・ル
H.12.2.14 第6回	新パルプ資源ケナフ	釜野 徳明	神奈川大学教授	自総研ホ・ル
H.13.2.24 第7回	早稲田商店街の痛快ごみ作戦	安井 潤一郎	早稲田商店街会長	自総研ホ・ル

表 - 1 市民活動報告会での報告一覧(第7回まで)

番号	題名	発表者(期)	所属のグループ	活動地域	分類
1・1	いま川が教えてくれること	桑垣美和子(1)	小出川に親しむ会	茅ヶ崎市	自然観察
1・2	市民参加の環境自治体づくりをめざして	猪俣満知子(1)	鎌倉エコ・ライフの会	鎌倉市	市民活動
1・3	フロンガス等オゾン層破壊物質の放出をなくすための運動	長谷川卓史(1)	ローランド=モリーナ会	横浜市	大気
1・4	蓑毛の森を見る、視る、観る	梅木俊子(1)ら	はだのネイチャー・ウォッチングクラブ	秦野市	自然保護
1・5	キャンプ場・オートキャンプ場での水質汚染の現場	寺島道代(1)	三浦アルタネット	鎌倉市	水質
1・6	大磯の水とくらしを考える会の歩み	栗田直枝	大磯の水とくらしを考える会	大磯町	まちづくり
2・1	地もとの自然に親しむことから	花上友彦(1)	萩野自然観察会	厚木市	自然観察
2・2	水道水と洗剤	田口操	川崎北生活クラブ・環境アクション	川崎市	水質
2・3	鎌倉環境会議の発足と活動内容	松本陽子(2)	かまくら環境会議	鎌倉市	市民活動
2・4	中原の地域環境を考える	萩原義章(故)	魅力あるまちづくり研究会	川崎市	まちづくり
2・5	川と森と緑の探検	本多博(1)	神奈川環境会議	神奈川県北	環境教育
2・6	自然公園を模索して	塚本正太郎(1)	柳谷の自然に学ぶ会	茅ヶ崎市	自然観察
3・1	身近な環境 川辺の鑑定図	桑垣美和子(1)	茅ヶ崎市生活排水対策推進会議	茅ヶ崎市	水質
3・2	紙管クラフトについて紹介	古澤正文(1)	リ・ウッドクラブ	茅ヶ崎市	リサイクル
3・3	境川ネットワーク準備会	阿部秀雄(4)ら		藤沢市	市民活動
3・4	環境にやさしい暮らし方を考える	依田仁(2)	この指とまれ、エコグッズ	逗子市	環境教育
3・5	市民ネットワーキング・相模川の活動報告	林雅信	市民ネットワーキング・相模川	県央	市民活動
4・1	鶴見川上流域(学交橋)での横浜市の水環境調査協力員による水質	内藤英代(4)	フリーマーケットin青葉世話人会	横浜市	水質
4・2	水を学ぼう	斎藤昭一(1)		相模原市	環境教育
4・3	人と自然にやさしい市民活動を目指して	長田邦彦(1)	かながわ環境会議	逗子市	市民活動
4・4	身近な生活の中でのリサイクル	渡辺かつ子(5)	リフォーム横浜会	横浜市	リサイクル
4・5	散乱ごみ防止対策に関する活動	高田晶子(5)	鎌倉を美しくする会	鎌倉市	市民活動
4・6	三浦半島の自然環境保全活動	田口汎(3)	三浦半島自然環境市民フォーラム	逗子市	自然保護
4・7	自然観察と自然保護	福島計一(5)	ネイチャークラブ5	藤沢市	自然観察
4・8	都市緑地と文明社会～川名緑地の保全をテーマとして	杉山和彦(4)	藤沢市自然環境懇話会	藤沢市	自然保護
4・9	かながわ環境教育会の活動事例報告	阿部薫(2)	かながわ環境教育研究会	鎌倉市	環境教育
4・10	環境活動報告書を読んで	清水幸夫(5)ら	Ecoの会	横浜市	環境マネ
4・11	大気中の窒素酸化物濃度の測定との関係について	澤木輝雄(4)	東京テクニカルカレッジ	国立市	大気
5・1	ISO14000手法による生活環境改善へのアプローチ	依田仁(2)		逗子市	環境マネ
5・2	プラスチックのリサイクルについて	上野和雄(2)	プラスチックリサイクルの会	横浜市	リサイクル
5・3	<リサイクルパワー>集まれ!廃棄物の減量化の推進	永野恭一(3)	鎌倉リサイクル推進会議	鎌倉市	リサイクル
5・4	よみがえれ海辺の空間	澤木輝雄(4)		横浜市	市民活動
5・5	家庭での省エネルギー	北村博子(5)	省エネルギー研究部会	横浜市	エネルギー
5・6	環境学習プログラムづくりワークショップ	渡辺敦(4)	かながわ環境教育研究会	大和市	環境教育
6・1	環境学習リーダーが取り組んだケナフの栽培活動と今後の課題	荒谷輝政(6)ら	ケナフ部会	相模原市	環境教育
6・2	丹沢避難小屋に於ける美化活動	渡邊吉一(5)	丹沢の避難小屋を美化する会	藤沢市	自然保護
6・3	自然環境保全と道路計画	大木悦子(6)	あいかわ自然ネットワーク	愛川町	自然保護
6・4	ゴミを減らすために私達にできる事	狩野光子(7)		厚木市	廃棄物
6・5	廃棄物を利用した水質浄化の基礎実験	田中美保ら	神奈川県立中央農業高等学校	海老名市	水質
6・6	座間市における環境学習副読本及び環境教育指導資料について	林恵子(4)		座間市	環境教育
7・1	環境の世紀へ～地域から広がる心のネットワークを目指して	山田あや子(8)	環境を考えるハッピープラザ	厚木市	市民活動
7・2	逗子市消費生活研究会の活動紹介と廃食油の固形石鹸作り	永濱賢蔵(5)	逗子市消費生活研究会	逗子市	市民活動
7・3	私の公園～公園からのプレゼント	谷里子(8)	能見台中央公園愛護会Gミモザ	横浜市	市民活動
7・4	横浜自然観察の森におけるボランティア活動	中村純子(3)	自然観察の森友の会PJ-AQUA	横浜市	市民活動
7・5	37市町村ゴミ分別カレンダーから見えるもの	原園信夫(7)ら	GO3の会	平塚市	廃棄物
7・6	神奈川区生涯学級における環境講座の開催	児玉勇(6)		横浜市	環境教育
7・7	ケナフの栽培、利用に関する基礎的研究	松下梓ら	神奈川県立中央農業高等学校	海老名市	環境教育
7・8	環境学習リーダーケナフ部会が取り組んだ活動報告(第2回)	早野木の実(6)	ケナフ部会	平塚市	環境教育
7・9	屋外照明の問題と省エネルギー	内田重美(8)	国際ダークスカイ協会	横浜市	エネルギー

注:環境マネは環境マネ・ジメント・監査

エネルギーとの賢いつきあい方プログラム試案

5期 藤木 浩、 5期 北村 博子

地球温暖化問題は、産業革命以降の西欧文明に支えられた、生産性・効率性・利便性を中心に追求してきた人間の生活活動の結果として現出していますが、未来世代に、新しい生命を育むに相応しい環境を残すためには、現世代の私たちのエネルギー利用を効果的・効率的にし、スマートライフ・シンプルライフの実践・実現が必要であると提唱されてきました。

そのスマートライフ実現のための手段の一つとして、「環境家計簿」による家庭でのエネルギー消費量のチェックがあります。日常生活のどの場面（図 - 1、2 参照）でのエネルギー消費のあり方を点検すればよいのか。ここでは、日常生活の見直し エネルギーとの賢いつきあい方行動改善計画 実行 実践記録(自己評価) 行動達成度評価 エネルギー消費のチェック(1

ヶ月間の消費量と CO₂ 排出量合計の前年同月分との削減量・削減割合の点検) エネルギーとの賢いつきあい方達成度評価 日常生活における行動の見直し 行動改善計画の見直しに至る過程に重点をおく、 エネルギーとの賢いつきあい方プログラム を考察することにします。

エネルギーとの「つきあい方」の結果が、日常生活・行動の見直し 行動改善計画 の見直しへとフィードバックされ、自己採点・自己評価ができるこのプログラムによって、環境負荷の少ない望ましい生活習慣を、日常生活の中に無理なく定着させ、ライフスタイルの変換を計ろうとするものです。

会員の皆様のご意見をいただき、改善していくことができれば幸いです。

エネルギーとの賢いつきあい方プログラム 表 - 1

1. エネルギーとの賢いつきあい方行動計画表 表 - 2

1) 日常生活の行動改善計画

日常生活行動の見直し

実行可能な行動改善項目の検討

実行可能な改善行動項目の設定

2) 実践記録・・・1ヶ月間継続 表 - 2

毎日或いは、毎週 1 回、改善行動項目の行動達成度を 表 - 3：行動達成度自己評価の目安に従って出した評価点を、表 - 2：計画表：実践記録 欄に 1 ヶ月間記録する。

1 ヶ月間の「行動達成度評価点」を集計し、「平均点」を算出、平均点 欄に記入する。

3) フィードバック

行動達成度評価平均点を、表 - 4：点検の目安 と照合、日常生活・行動 を見直し、表 - 2：行動改善項目 を検討する。

2. エネルギーとの賢いつきあい方点検・評価表 表 - 5

1) エネルギーの消費量・使用料金額の記録

毎月の、電気・ガス(LPG)・灯油・ガソリン(軽油)・水道・(ごみ)の消費量・使用料金額を「使用量のお知らせ」「領収書」等から記入する。

前年同月分の消費量との削減量を算出し、今年 - 前年 の欄に記入する。

2) エネルギーとの賢いつきあい方達成度評価

前年同月分との各エネルギー消費量削減率を算出し、表 - 5：評価：% の欄に記入する。

表 - 6：エネルギー消費削減達成度評価の目安 と「エネルギー消費削減率」を照合、

表 - 6：エネルギーとのつきあい方評価点 の 11 段階評価で点をつけ、表 - 5：評価：点 の欄に記入する。

3) フィードバック

表 - 5：評価点 と 表 - 2：評価の平均点 と併せて、1 ヶ月間の各種燃料の CO₂ 排出量の合計と、前年度同月分の合計との比較検討も加え、表 - 4：点検の目安 と照合して「行動改善計画」を見直し、次の 1 ヶ月間の目標を設定する。

表 - 1 エネルギーとの賢いつきあい方プログラム

	行動改善計画	実践記録 改善行動 達成度自己評価	改善行動 達成度評価	エネルギー消費量 CO ₂ 排出量	エネルギーと CO ₂ 排出量の 前年同月分との 比較(量・%)	エネルギーとの 賢いつきあい方 達成度評価	フィードバック
ステップ 1	[表 - 2] 行動改善項目 を決め計画表 を作る						
ステップ 2		[表 - 3] 改善行動計画の 行動達成度 自己評価を 1ヶ月間 [表 - 2] 記録する					
ステップ 3			[表 - 2] 記録した1ヶ月間の 評価点を集計し、 平均点を出す	[表 - 5] 改善行動項目 決定から1ヶ月間の エネルギー消費量 を記入、 CO ₂ 排出量 を算出する	[表 - 5] 前年同月分との 削減量・割合 を算出する		
ステップ 4						[表 - 6] エネルギー消費削減 割合から エネルギーとの賢い つきあい方達成度 評価点を出す	[表 - 2] 改善行動達成度 評価点と [表 - 5] エネルギーとの賢い つきあい方達成度評価点と 1ヶ月間の各種燃料のCO ₂ 排出量合計と前年同月分 との比較検討から [表 - 4] [表 - 2] 点検の目安 を検討し 行動改善計画 を見直す

表 - 2 エネルギーとの賢いつきあい方行動改善計画表 - 行動計画・実践記録・評価 -

月の行動改善項目		実践記録 - 行動達成度自己評価 - 表 - 3に基づく																												行動達成度評価					
チェック項目(例)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計	平均点	点検
		第一週							第二週							第三週							第四週												
電気	暖房20 以下 電灯はこまめに消す																																		
ガス (LPG)																																			
水道																																			
灯油																																			
ガソリン (軽油)																																			
ごみ																																			
その他																																			

表 - 3 改善行動達成評価

改善行動達成度自己評価の目安	評価
必ず実行した	5
ほとんど実行した	4
実行したり、実行しなかったりした	3
ほとんど実行しなかった	2
まったく実行しなかった	1

表 - 4 評価の点検

- 改善行動達成度評価 -
- エネルギーとの賢いつきあい方達成度評価 -

評価	点検の目安	点検
3.5以上	更に継続 習慣化を図る	継続
	習慣として定着できたと判断できればその項目は終了	習慣化終了
	新しい項目を検討設定する	新設定
3.5未満 2.5以上	改善項目の実行が不十分に終わった要因を検討する	要因検討
	継続して習慣化を図る	継続
2.5未満	ほとんど実行できなかった要因を検討 継続	要因検討
	新しい項目の検討設定	継続・設定

表 - 6 エネルギーとの賢いつきあい方評価

エネルギー消費削減達成度の目安	エネルギーとの賢いつきあい方達成度評価
-10% 以上 (削減)	5
-7% 以上 -10% 未満 "	4
-4% 以上 -7% 未満 "	3
-1% 以上 -4% 未満 "	2
0% 以上 -1% 未満 "	1
0%	0
0% 以上 +1% 未満 (増加)	-1
+1% 以上 +4% 未満 "	-2
+4% 以上 +7% 未満 "	-3
+7% 以上 +10% 未満 "	-4
+10% 以上 "	-5

表 - 5 エネルギーとの賢いつきあい方点検・評価表 - エネルギー消費量とCO₂排出量チェック・削減率・評価 -

	電気					ガソリン (軽油) - - 注 - 2					都市ガス (L.P.G.) - - 注 - 3				
	使用金額	使用量	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量	評価	使用金額	使用量	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量	評価	使用金額	使用量	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量	評価
年 月	円	kwh	x 0.36	kg		円	l	x 2.3	kg		円	m ³	x 2.1	kg	
前年同月	円	kwh	x 0.36	kg	%	円	l	x 2.3	kg	%	円	m ³	x 2.1	kg	%
今年 - 前年	円	kwh		kg	点	円	l		kg	点	円	m ³		kg	点
年 月	円	kwh	x 0.36	kg		円	l	x 2.3	kg		円	m ³	x 2.1	kg	
前年同月	円	kwh	x 0.36	kg	%	円	l	x 2.3	kg	%	円	m ³	x 2.1	kg	%
今年 - 前年	円	kwh		kg	点	円	l		kg	点	円	m ³		kg	点

	灯油					水道					ごみ				
	使用金額	使用量	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量	評価	使用金額	使用量	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量	評価	廃棄量	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量	評価	
年 月	円	l	x 2.5	kg		円	m ³	x 0.58	kg		kg	x 0.84	kg		
前年同月	円	l	x 2.5	kg	%	円	m ³	x 0.58	kg	%	kg	x 0.84	kg	%	
今年 - 前年	円	l		kg	点	円	m ³		kg	点	kg		kg	点	
年 月	円	l	x 2.5	kg		円	m ³	x 0.58	kg		kg	x 0.84	kg		
前年同月	円	l	x 2.5	kg	%	円	m ³	x 0.58	kg	%	kg	x 0.84	kg	%	
今年 - 前年	円	l		kg	点	円	m ³		kg	点	kg		kg	点	

注 - 1 CO₂排出係数は、環境省、全国地球温暖化防止活動推進センターから (居住地域のものの使用が望ましい)
 注 - 2 軽油 CO₂排出係数 = 2.6
 注 - 3 L.P.G. CO₂排出係数 = 6.3

図 - 1 用途別
家庭からの二酸化炭素排出量

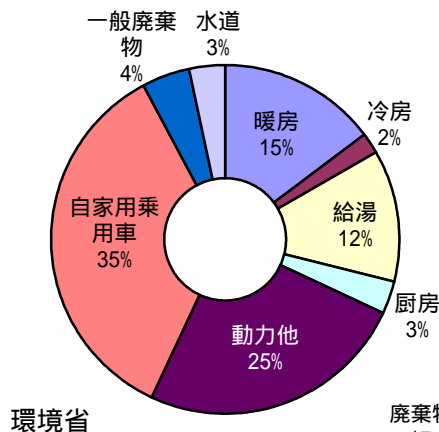
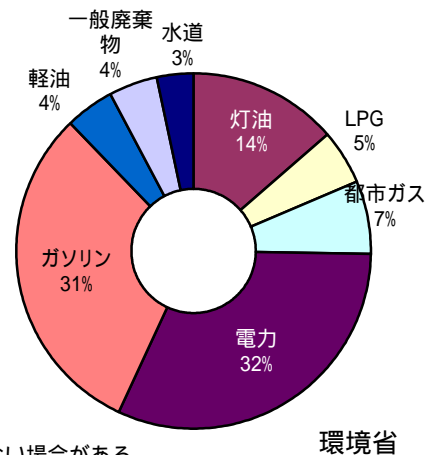


図 - 2 燃料種別
家庭からの二酸化炭素排出



世帯当たりCO₂排出量
約5,900 [kgCO₂/世帯]
(1999年度)

廃棄物部は事業系一般廃棄物を含む。
切り上げの関係で合計が100%にならない場合がある。